

# チーム えがお

【学校教育目標：たくましく生きる児童の育成】

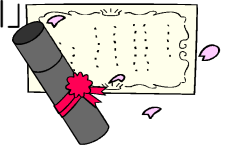
・やさしい子 ・考える子 ・元気な子 ・やりぬく子



発行者:校長 岡田 達也

～ えがお かがやき がんばる 学校 おうえんだん「チーム北川」

## 卒業に向けて 着々と!



6年生は、卒業に向けた最後の週となりました。卒業式の練習に取り組む姿を見ていると、一人一人が自覚をもって練習しているなあと感心させられます。27名の真剣さが、私たちにも伝わってきます。

繰り返し練習している点は、①入退場の歩き方、②起立・礼・着席の姿勢、③名前を呼ばれたときの返事、④証書授与の動き、⑤呼びかけなど、たくさんあります。子どもたちのもてる力をしっかりと発揮させ、感動的な

卒業式となるよう、最後まで頑張りたいと思っています。練習では、指導する教員から「〇〇を頑張ろう!」という声が出ます。それは、それを頑張ることで、より高いレベルに近づくことができるからです。子どもたちならできると信じているからです。

こうした卒業式練習の合間に、6年生は業間休みを使って奉仕作業にも取り組んでいます。玄関や廊下、階段をきれいにそうじしてくれています。お世話になった校舎への恩返しのようなのです。その姿は、在校生の目にしっかりと焼き付き、よい伝統として受け継がれていくはずです。

また、11日(金)の6校時は、私たち教職員のために謝恩会を開いてくれました。会の中で、これまでの感謝の気持ちを表してくれました。短い時間でしたが、子どもたちの「おもてなし」に心が温かくなりました。

このように6年生は、卒業生としての自覚を胸に残りの日々を大切に過ごしています。あと3日、私たち教職員も在校生と一緒に卒業生への感謝の気持ちを伝えるとともに、一日一日を大切に過ごしていきたいと思ひます。



### 「3.11」を忘れない!!

東日本大震災は、発生から5年の日を迎えました。5年前の3月11日、午後2時46分に誰もが経験したことのない想定外の地震が起こりました。その結果、2万1865人(死者1万9304人、行方不明者2561人)の方が犠牲となり、津波によって多くの家も流されました。原子力発電所も壊れ、多くの方が避難しました。あれからもう5年も経ちましたが、未だに避難されている人が17万4000人(笠岡市の人口の3倍以上)もいます。今でも、5万7677人の方がプレハブ仮設住宅で暮らしているのが現実です。

私たちができることは、もう二度と多くの方が犠牲にならないようにすることです。そのためには、「3.11」のことを絶対に忘れないこと。そして、何があっても助け合って生きること。11日は、日本中の人々が「3.11」で犠牲になった方に弔意(人の死を悲しみいたむ気持ち。)を表しました。本校でも、国旗を半旗にして掲揚し、地震が起きた午後2時46分に全員で黙祷を捧げました。